

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1070101843		
法人名	有限会社 ささえあい・ねっと		
事業所名	グループホーム さちね		
所在地	群馬県前橋市上細井町2015		
自己評価作成日	平成29年 2月25日	評価結果市町村受理日	平成27年 4月16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人群馬社会福祉評価機構
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12
訪問調査日	平成29年3月13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホームの理念「介護する人 される人 誰もが皆 家族です」を掲げ 明るく暖かい家庭的な雰囲気を常に心がけ、居心地の良い場となれるよう、ご利用者様のお手伝いをさせて頂いております。介護度の高い方が多く ご利用して下さっており、心のケアを重点に置き、より一層 心の支えになれる様、寄り添っていきたくと思います。ホームの環境でも、木のぬくもりが感じられる建物で 外の景色が見渡せ季節の花々が目に入り、ご利用者様と職員ともに楽しむ事ができ、心の安定が図れるよう、努めております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「介護する人、される人、誰もが皆家族」を理念に掲げ、職員は利用者を家族の一員のように関わり、日々の介護や日常的な支援に努めている。利用者の家族に対しては、出来る限り職員と共に、日々の生活を支え合えるよう、ちょっとした支援や適度な顔出しを依頼し、家族と接触する場面をなるべく設けることで、利用者の安心感に加え、家族から得られる本人情報の増強や共有化を図り、「家族という形」の形成に努めている。また、利用者の入居期間、事業所で働く職員の勤続年数がともに長く、木造で暖か味がある事業所で、保育園や小学校・スーパーに囲まれた立地のなか、最期まで気心の通じた「家族」で過ごすことができる施設として取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「さちね」の理念を共有し、特に心のケアを大切に居心地の良い場となれるよう、ケアプラン等に 生かし実践している。	理念にうたわれている「家族を」を基本に置き、本当の家族のように「喜怒哀楽」を分かち合うような接し方や関わりを目指して、日々研鑽している。馴れ馴れしくならないように注意しているが、付き合いが長くなり情が強くなると、崩れてしまいがちなので注意している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	隣接するスーパーに買い物に同行して頂き、店員の方との交流がある。民生委員の方との繋がりがある。	近隣のスーパーに食材の買い物を職員と行くことを通じて店員と顔なじみとなったり、定期的に歌やハーモニカのボランティアが訪れ交流の機会となっている。地域の行事などへの参加も適宜行っているが、利用者の体調や症状などで継続が難しいこともある。	地域とのかかわりを考え、地域の方に知ってもらう活動アピールや立地条件を活かした近隣とのかかわり方などの検討を期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議等で、町内の方にご参加頂いており、認知症の話題の交換を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で、ホームの近況報告をしている。ご意見等いただき、サービス支援の向上に生かす。	会議は老人会会長、民生委員、家族代表、市担当者が構成され、2ヶ月毎に開催している。内容は事業所の近況報告が主であり、出席者から地域の情報を聞く機会や意見交換の場になっている。	多角的な幅広い意見を得るために、会議参加構成メンバーの再考や議題の検討、参加しやすくする工夫など、更に会議が活性化されるよう期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に、ご参加頂いており行政の立場からのご意見等伺う。	市の担当者とは、施設運営に関する確認や事務手続きなどの助言を得るため、電話や訪問を行ない、情報交換や指導・助言を頂いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	言葉の拘束等、身体拘束をしないケアの共有認識を図っている。玄関の施錠は夜間を除き施錠していない。	玄関の施錠は夜間を除いては行わず、言語による拘束を含め身体拘束をしないケアに努めている。利用者の重度化に伴い、転倒リスク増大や介助量が増えており、転倒事故防止等のセンサー使用や頻会な見守りにて事故防止に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	不適切なケアについて取り上げ、会議等職員間で確認し合っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	学ぶ機会がなく、今後 学ぶ機会を設けていきたいと思っております。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約等に関し、ご家族等に説明しご理解・納得して頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見ご要望には傾聴し、ご家族とは気軽に話せる機会を設け、玄関には苦情ノートを設置している。運営推進会議でも話す機会がある。	日頃の会話や表情、雰囲気から読み取りながら、利用者の嗜好などを確認している。家族には、毎月の利用料を窓口を持参していただくことで、状況説明をして、意見や要望を聞くようにしている。メールでの連絡も適宜行い、双方向の付き合いを目指している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見等は、常に耳を傾け会議等でも、話せる機会を設けている。	毎月1回全職員参加による職員会議を開催し、意見や提案を話し合っている。勤務年数が長い職員が多く職員間の関係がよく意見を言える環境があり、管理者は日常的に声かけや相談に応じ、より良い運営や介護の実現に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者からの報告により、職員に関する事や 環境等を把握し対応している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人外の研修は多くの職員が取り組むのは難しいが、事業所内での勉強会の機会を増やしていきたいと思います。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	個人で研修会に参加し、交流できる機会を増やし質の向上に繋がりたいと思います。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスの前と後とで、ご本人様のご要望等伺い、ご家族様にも情報をいただき安心して サービスを受けて頂けるように体制を整えている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	気軽に相談して頂けるような関係づくりに努め、 ご一緒に考えながら納得 安心して頂けるような 対応をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期対応で必要な支援をご相談の上 できるだけその思いにお応えできるよう取り組んでいる。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人様のできる事が減っていく中でも、その時の状態を見極めながら、支え合って暮らしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	いつでもホームに来て頂けるような環境を作り、ご家族に参加して頂く場をもうけ、皆で支え合うよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご面会の際には、ゆったりと過ごして頂ける環境づくりをし、心が和む時間となれるよう努めている	家族以外の面会の際には、家族に確認して対応し、利用者の様子を伝え、面会がスムーズにいくようにしている。また、家族の協力により、馴染みの場や墓参りなどに出掛け	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士の良い関係が保てるよう、お一人お一人を把握し、状態観察しながら日々支援させて頂いている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長年入居されていた方のご家族とは、季節のあいさつの手紙等で近況報告等のやりとりをさせて頂いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	言葉で伝えられない方でも、日常生活の中で答えを見つけられるよう職員間で話し合い、居心地の良い場となるよう努力している。	声かけや会話・表情を通し、思いや意向の把握に努めている。会話が難しい方が増え、日頃接する中で推測された内容を、家族に確認して事実確認を行うこともある。得た個々の情報は記録し、情報共有を図り支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族やご本人様に伺い、日々の暮らしの中でも把握に努め、多くの情報を把握できるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の申し送りや会議等で、全職員が把握し望まれる生活となるよう努力している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月モニタリングを行ない、見直し評価しご家族の意向を伺いながら同意を得て介護計画書の作成をしている。	利用者の担当制で担当職員が本人・家族の意向を聞き、カンファレンスでの話し合いを基に、介護計画を作成している。個別記録・業務日誌を活用し、担当職員は毎月モニタリングを実施している。状態や希望の変化に応じ、計画の見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の変化等を個別に記録し全職員で把握しながらケア行ない、介護計画に繋げている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	内科・歯科往診、訪問サービスの散髪、マッサージはご要望に応じ取り組んでいる。内科・歯科以外の受診は必要に応じ対応している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	安心して地域での暮らしを続けられるよう、町内の民生委員の方とお話する機会がある。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	内科の往診、歯科の往診と親身になって協力して下さる主治医がいて、相談できる体制になっている。	本人、家族と相談し、多くが事業所の協力医を選択している。事業所の協力医による月2回の往診、歯科による週1回の往診がある。緊急で他科を受診する場合は、職員が通院介助し、受診結果は、緊急の場合を除き、面会時に報告している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ホーム内には看護師の配置はないが、契約しているクリニックの訪問看護師にいつでも相談できる体制は整っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された際には、面会に行き状態確認に努め早期退院できるよう、入院先の主治医と相談させて頂いている。ホームの主治医にも相談させて頂く。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や看取りについての指針は、入居の際に説明させて頂いているが、その方の置かれている状況に応じ その都度ご家族・主治医・ホーム側と話し合いをし、意向を確認しながら対応している。	重度化や看取りの指針を作成し、入居時に説明している。事業所での医療体制に限界があり、十分な対応が難かしいため看取りは行なわないとしているが、状況や状態に応じ、家族、主治医と話し合い、これまでに数回行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルを掲示し、緊急時に備え、会議で対応方法の確認をしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を職員・ご利用者の方と行なっている。緊急時に地域の方の協力体制がある。	年2回、夜間想定も取り入れ避難訓練を実施している。災害時の備蓄として、少量の食料や飲水、おむつなどがある。	利用者の重度化に合った避難経路や災害時支援内容の見直しを期待したい。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご本人のお気持ちを考え、トイレ等さりげない言葉かけをし、居室に入る際には、お声をかけてから入るようにしている。	個々人の性格や生活歴に合わせて、日々暮らす上で、家族的な雰囲気とプライバシーや人格尊重を両立させられるよう努力している。排泄や入浴介助の際には、さりげない言動や同性介助に注意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	言葉かけをし、希望等をうかがっているのが基本ではあるが、その方のその時の状態に応じ対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人の思いやペースを大切にしながら、その人らしい暮らしができるように、努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問サービスの散髪、ホームで髪染め 時には化粧し 若々しくおしゃれを楽しんでいた だけの 働きかけをしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	お手伝いが可能な方と、職員とで食事の準備や片づけを行なう。会話の中から好きなメニューを伺ったり、ご家族からの情報を得ながら取り入れている。	食事は、家族のように利用者、職員一緒に行っており、利用者一人ひとりに盛り付けや片付けなどの役割を持ってもらっている。献立や調理は季節の食材やバランスを考慮し職員が交代で行ない、食材購入は近くのスーパーに利用者と職員が出かけている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取量は、チェック表で確認しながら情報を共有し、支援している。その方に合った 方法で無理なく提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行ない、状態確認している。 希望で歯科往診受けている方もいる。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を使用し、個々の排泄パターンを把握し、その方のタイミングにあったトイレ誘導を行なっている。	排泄チェック表にて個々の排泄パターンを把握し、声かけ、誘導により、日中はトイレでの排泄支援をしている。夜間時は、適時のトイレ誘導、パット交換など、状態に合わせた排泄支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表や状態等を確認しながら飲食の提供しその方に合った対策をしている。状態の低下にともない共通の課題となっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週末は面会が比較的多くなる為、日曜のみお休みとし、それ以外は入浴できる体制になっている。職員の勤務状況により、時間帯の制限はある。	日曜日を除き週2回は入浴を支援し、体調変化時の対応や安全面から午前中に実施している。入浴剤や菖蒲湯・ゆず湯の季節湯を行い、職員と1対1で過ごせるため会話も弾み楽しい時間となるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その方の状態に合わせ必要に応じて、夜間の睡眠の妨げにならないよう、静養して頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬管理表で 個々の薬の確認ができるようになっている。チェック表で誤薬を防ぐ取り組みをし居宅療養管理サービスの利用で相談できる体制がある。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人・ご家族の方からの情報で、その方にとっての楽しみごと、役割等見つけ出し毎日の生活支援に生かしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その方の状態に合わせて、近隣散歩や買い物に出かけている。毎月行事を企画し、外出支援や 外気浴の取り組み等で気分転換を図っている。	体調を見ながら、近隣の散歩、花や野菜の植えられた中庭や敷地内の庭での日向ぼっこやお茶、収穫を楽しんでいる。外出行事の折は家族にも参加を促し、床屋などの個別の外出支援も、状態や状況にて行っている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買物等の希望があれば、立て替えて ご自分で支払いできる方の支援は、可能である。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	遠方のご家族から、定期的にお電話やはがきがきている方の支援や 年賀状等の季節のはがきを出す取り組みもある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居心地の良い場となるような環境を整え、椅子の配置や季節の飾りつけ等を行なっている。	木がふんだんに使われた温もりのある建物で、天井が高く窓も大きいため明るく景色も楽しめ、畳のスペースでくつろげるようになっている。中庭を臨む回廊式の廊下は座る場所が多く、季節の花や栽培の野菜を眺め、散歩や社交の場となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った利用者の方同士で、廊下のベンチや和室等で一緒にいられる居場所の確保はできている。その方に合わせて お一人になれる 空間も大切にしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には馴染みの物を、もってきて頂き、写真等飾り 居心地の良い空間になっている。	居室は広く畳とフローリング併用の部屋が3室、他はフローリングとなっている。利用者が各々家族の写真や馴染みの家具や思い出の品などを自由に持ち込め、本人が安心して過ごせるような空間となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ・廊下・居室等に手すりの設置があり、歩行の安全確保をし、トイレの目印があり場所の確認ができる。現状では自立困難な方が多くなっている。		